

2021/4/19 ユニット構築会議／学術実験プラットフォーム検討会議(第3回)

“プラットフォーム2021”について

学術実験プラットフォーム(プラットフォーム2021)検討チーム

学術実験プラットフォーム検討について

<4/12の会合における質疑から>

実験プラットフォームとしているのは、LHDが喫緊の問題となっているからである。LHDプロジェクトは順調に進んでいて2022年に終了するので、これを成功裏に完成したというところまで持って行くことが最大のミッション。その後については、研究所のプロポーザルは認められなかったので、2022年以降はプロジェクトがないフェーズに突入する。今年度中に、LHDをどうするのかヒアリングを受けることになっているが、ちゃんとしたプランを示さないと、既に2022年度まで認められている予算でLHDを片付けるように要求される可能性もある。我々が最大限戦わなければならないことは、**LHDの資産をいかに未来に続けるものとする**こと。それがpost-LHDの意義で、ディフェンシブな考え方になる。一方で、物事は全てディフェンスだけで考えてはならないので、未来志向でを構築したいのがユニットであり、**10年間の核融合科学の中核的なテーマは何かを我々が示さないとならない**。そして、それをするために何が必要かを考える。

=> “プラットフォーム2021”

2つの“プラットフォーム”について

NIFSのプラットフォーム:

大学共同利用機関としてのNIFSが保有・運用する
学術研究基盤(LHD、スパコン、高磁場導体試験装置、NBTS、
Oroshi-2、ACT2、Hyper-I、(CFQS、、、、))

研究課題設定、年次計画、将来計画をそれぞれに対して検討。ユニットの研究計画で再定義。

学術実験プラットフォーム検討の対象:

2021年度にNIFSで喫緊検討すべきpost LHD時代の
プラットフォーム:LHD出口戦略+長期プラン

=>「プラットフォーム2021」:本検討会合で議論

(注)誤解のないように、問題の重さ≠学術的価値

「プラットフォーム2021」検討の対象:

2021年度 2022年度 2023年度

プラットフォーム2021検討

・2021年度内に「学術研究の大型プロジェクトに関する作業部会」でLHDの出口戦略に関するヒヤリング

LHD: 大型学術フロンティア促進事業

資産活用

LHDの出口戦略: 装置資源を有効利用した研究計画
・複数の案を検討

長期プラン: 次世代プロジェクト
・研究計画を複数検討

予算化

資産活用